

## 第7回 総括検討会 議事録

1. 開催日時：平成19年2月9日（金）10：00～12：00

2. 開催場所：航空会館 702 会議室

3. 出席者：（順不同，敬称略）

- 委員：柴田主査（東京大学名誉教授），原副主査（東京理科大学），久保副主査（東京大学），白井幹事・金谷（関西電力），野田・土方・酒井（東京電力），植田・遠藤（日本原電），金津（電中研），久野（中部電力），清水（大林組），田中（原子力安全基盤機構），中川（日立），吉賀（三菱重工業），森山（大成建設）藪内（鹿島建設），中島（東芝），（計19名）
- 代理出席：石崎（竹中工務店・神地代理），須原（清水建設・小川代理），（計2名）
- 欠席委員：秋野（計1名）
  - オブザーバ：西村（東京電力），花田（日本原子力技術協会）兼近（鹿島建設）（計3名）
- 事務局：大東、荒木（日本電気協会）（計2名）

4. 配布資料

資料 No.7-1 第6回総括検討会議事録（案）

資料 No.7-2-1 JEAG4601「基準地震動策定・地質調査編」に関する書面投票結果について

資料 No.7-2-2-1 JEAG4619「SC技術指針-機器支持定着部編」に関する書面投票結果について

資料 No.7-2-2-2 JEAG4619 SC技術指針-機器支持定着部編(案)の今後の取扱い

資料 No.7-3-1 JEAG4601 改定における仕様規定化の対応方針(案)

資料 No.7-3-2-1 第1章 基本事項

資料 No.7-3-2-2 原子炉等規制法他の抜粋

資料 No.7-3-3 執筆要領 Rev7

資料 No.7-4 根本原因分析

5. 議事

(1) 代理出席者の承認及び前回議事録の確認

本日の代理出席者は2名であり、代理出席者については規約に基づき柴田主査の承認を頂いた。また、代理出席を含む出席委員は21名であり、規約上、決議に際して求められる委員総数の2/3以上の出席であることが確認された。

また、事務局より前回議事録（案）の紹介を行い、出席者全員の賛成で了承された。

(2) 2/5原子力規格委員会の状況報告

資料 No.7-2-1、資料 No.7-2-2-1,2 により、JEAG4601「基準地震動策定・地質調査編」及び JEAG4619「SC技術指針-機器支持定着部編」の原子力規格委員会書面投票結果と JEAG4619「SC技術指針-機器支持定着部編」については、制定作業を一時中断することが原子力規格委員会です承された旨の報告が行われた。

(3) JEAG4601 改定における仕様規定化の対応方針(案)

資料 No.7-3-1 により、JEAG4601 改定における仕様規定化の対応方針(案)と規格委員会書面投票での反対

意見に対する対応案について説明が行われ、審議した。本日の意見をふまえ、幹事で再検討し次回分科会に諮ることが了承された。

主なコメントを以下に示す。

- ・先行発刊するかどうかは、事業者と規制側の作業を円滑にする観点からであり、時間的な余裕があるなら必ずしもこだわらない。
- ・書面投票で指摘のあつた「適切に」という記載はできるだけ避け、書けるものは書くべき。
- ・仕様規定化となれば、例えばボーリング径、長さ、本数等が規定されることになる。記載の充実は図れても完全な仕様規定は不可能。
- ・ユーザーとして、審査する側だけでなく設計する側も存在する。設計側にとって仕様規定化が望ましいと考えるのは、世の中の趨勢と逆行する。
- ・ガイドとして書面投票にかけたのに、コードとして反対意見を出されている。  
反対された方に個別対応し説明させてもらいたい。
- ・今後の仕様規定化は、JEAG 改訂ではなく、コードの新設という位置付けではないか。
- ・仕様規定化といっても書けないものがあり、仕様の部分だけを取り出すと全体の体系がくずれるのではないか。
- ・地震動・地質調査編の記載の充実には、時間がかかるので短期・中期・長期に分けて対応を整理していきたい。

#### (4) JEAG4601 第1章 基本事項

資料 No.7-3-2-1 により第1章 基本事項の分科会コメント対応案について説明が行われ審議した。本日の意見をふまえ、幹事で再検討することとした。

主なコメントを以下に示す

- ・1.3.1 基本的考え方の解説に追記した部分のうち、「設計の各段階で安全側になるよう適切な裕度を持たせた」について、具体的な例示を示すこと。  
また、後続の基準地震動  $S_s$  に関する記述は削除すること。

#### (5) 執筆要領の改訂

資料 No.7-3-3 により、執筆要領改訂版の紹介が行われた。

#### (6) その他

##### a. 根本原因分析

資料 No.7-4 により、組織要因を特定するための根本原因分析について、我々も念頭に置くべきとの紹介が柴田先生よりあった。

##### b. $S_s$ 超の領域での炉心損傷などについて

柴田先生より、地震時の炉心損傷に関する文献の紹介が行われた。

c. SC 技術指針 (JEAG4619) については、新設プラントで使いたいというニーズがあるので、JEAG4601 の改訂から遅れることなく制定してもらいたいとの要望があった。

以上